

令和2年度 出資団体監査の結果（指摘・意見・リスク発現の可能性があるもの）に基づく措置状況等の報告

- 1 監査の種類 出資団体監査
- 2 監査対象 公益財団法人四日市市文化まちづくり財団
市民文化部文化振興課（出資に関する事務の所管所属）
- 3 監査実施期間 令和 3年 1月12日

【公益財団法人四日市市文化まちづくり財団】

指 摘

特になし

意 見

- 1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査結果
特になし

2 3E（経済性、有効性、効率性）等の視点からの着眼点に着目して行った監査結果

意 見	措置（具体的内容）・対応状況
① 各グループの意識統一について【有効性の視点】 各グループの事業場所が点在しており在籍年数が長期化していることから、活発な交流が必要である。	【措置済】 令和 3年 4月 1日 令和3年1月1日付け及び令和3年4月1日付け人事異動により、適正な人員配置を行った。今後も財団全体の人員構成やバランスを考慮しながら適材適所の配置に努める。
② 職員等の接遇について【有効性の視点】 ア 文化会館の接遇はよくなってきている。管理している他の施設においても引き続き接遇の向上に努めること。	【措置済】 令和 3年 4月 1日 財団の事業のほとんどが接客を中心としているため、毎年職員全員を対象とした接遇研修を実施している。また、各施設には利用者から意見等を求める箱を設置し、意見を参考に利用者ニーズに対応し顧客満足度の向上に努めている。接遇に関する意見があったときには、OJT研修により改善している。また、所属長やグループリーダーが適宜施設を訪問し接遇向上の指導を行っている。今後も引き続き接遇向上に努めていく。

<p>イ 文化会館の舞台のスタッフについても、常に客から見えていることを前提に作業するよう徹底すること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 4月 1日 業務委託先の舞台スタッフについても、文化会館の一員としてお客様に接するよう業務連絡や意見交換等も密に行っている。財団主催の接遇等の研修にも積極的な参加を促し、会館全体のイメージアップに努めている。舞台スタッフには、今後も、常に客から見えていることを前提とした作業を行うことについても徹底していく。</p>
<p>③ 預金の管理について【効率性の視点】 事業ごとに通帳を管理しているが、各部署での現金の取扱いについて、例えば一括購入、一括支払いの割合を高めて通帳を減らすとともに、物品の在庫管理を効率的に行うこと。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 4月 1日 預金通帳は振替伝票起票の際、どの事業の何の収入なのかわかるようにするため、また、離れた場所にある事業場の現金収入の入金先として安全確保のため保持している。現在の会計の仕組み上事務効率と安全性を重視した必要数としている。物品の在庫管理については、発注担当者を決め物品の重複発注を防止し、在庫数の把握、在庫切れ防止、探す時間の短縮のため保管場所を固定している。</p>
<p>④ 音響効果を活かせる公演の誘致について【有効性の視点】 文化会館の改修により音響がよくなったことから音響効果を活かせる公演の誘致が可能となった。ハードの整備に伴いソフト面での改善として、例えばクラシック音楽の場合、曲間案内、楽章間や演奏中の入退室禁止などのスタッフの対応が求められるため、県外の人気のあるホール運営をしているところに学び、スキルを身に付けていくこと。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 9月12日 ソフト面を支える職員の人材育成については、全国公立文化施設協会の研修への参加や他館と自主事業を共同実施を行っている。今後も人事交流を申し入れるなどスキルの向上に努めていく。</p>
<p>⑤ 文化会館の駐車場について【効率性の視点】 文化会館の第1駐車場が満車の場合、誘導員の案内やホームページによるお知らせを行っているとのことである。主催者側にあらかじめ情報提供をすることや、第2、第4駐車場に速やかに誘導し、開演に遅れてクレームにならないような体制とすること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 3月 1日 ホームページで駐車場の混雑予想の情報提供を行っているが、催事主催者に対し同一日程の大規模催事について直接情報提供を行うほか、円滑な駐車場案内について今一度徹底をした。</p>
<p>⑥ 文化会館におけるコロナ禍の対策について【有効性の視点】 ア 利用者の安全や健康が大事であり、感染を避けるためにも、市と相談しながら躊躇せず閉館の検討をすること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 9月30日 感染拡大防止は最重要課題の1つであり、常に市と協議し適切な運用と対応を継続している。引き続き今後も市の方針に基づき連携を密にとり、感染対策に努めていく。</p>
<p>イ 開館中の施設利用については感染防止対策を厳重に行うこと。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 3月 1日 多数が一同に会する機会の軽減を図るため、自主事業のオンライン配信やSNS発信、利用者会議のオンライン化などを行っている。今後も引き続き感染対策に努めていく。</p>
<p>⑦ 文化会館の友の会について【有効性の視点】 文化会館の改修中は「友の会」を休止していたところであるが、再開にあたってはホール改修と事業の充実の相乗効果により、来館者の増加に努めること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 3月 1日 友の会会員数及び来館者数の増加を図るため、安全安心な施設利用、ホールの改修効果が反映される魅力ある事業の企画やきめ細かい情報の発信に引き続き努めていく。</p>

<p>⑧ 泗翠庵について【有効性の視点】 ア 泗翠庵の存在が市民に周知されていないので、茶華道以外にも利用できる事業を開催し、広くたくさんの人に来ていただけるよう工夫すること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 8月18日 市民団体の協力により運営を継続している唯一の公共茶室としてその魅力を多くの人に知っていただくため、茶道体験講座や伝統文化講座等さまざまな事業を行っているが、新たに子どもと保護者を対象にした見学会を実施した。今後も新たな事業を企画し来館者の増加に努める。</p>
<p>イ 茶席での長時間の正座は大変であり椅子席でも利用できるようなしつらえにするなど、高齢者にも利用しやすく利用者増の方法として椅子席の検討をすること。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 2月 1日 広間小間の利用は本来正座を基本としている。しかしながら現代的な課題への対応として、膝への負担が軽減可能な正座椅子を導入した。</p>
<p>⑨ 伊坂ダムにおける財団の管理施設について【有効性の視点】 財団管理の施設について、地域の人々の利用はもちろんのこと、遠方からの来訪など誰もが利用しやすい開放的な施設として運営していくこと。</p>	<p>【措置済】 令和 3年 4月 1日 地域の人だけ利用している施設ではなく、伊坂ダム利用者が気楽に施設を利用できるよう職員への指導や広報に努めている。今後もツイッター等のSNSも活用し、広く施設の魅力発信を行っていく。</p>

リスク発現の可能性があるもの

監査結果	対応状況
<p>(4) 事業継続性のリスク ア 職員の年齢層に偏りはないか リスク発現の可能性 (○予防策あり、△可能性あり、×発現) × 職員の年齢層に偏りがあり、中長期の安定的な事業継続を行うためには正職員の採用、育成が必要である。</p>	<p>【対応状況】 令和 3年 9月30日 かつては財団の経営面等を考慮し、新規職員の採用を躊躇するところがあったが、40代以上の職員比率が高く、平成30年度から正職員の定年退職者が続くことから、まずは令和4年度に嘱託職員を新規雇用し、正職員への登用も念頭に再雇用職員も活用して育成に努め、安定的な運営を行う予定である。 【対応状況】 令和 4年 3月31日 令和4年2月に嘱託職員採用試験を実施した結果、若年の女性1名を令和4年4月1日付けで雇用する。新規採用職員にはグループリーダーがトレーナーとなり、財団の実務について指導に当たる。また、再雇用職員をはじめとした経験豊富な職員による若手職員へのノウハウの継承に努めている。</p>

【市民文化部文化振興課】
特になし